

# 事例研究報告

**自立課題マスターになろう！**

**指示を守って、確実にやり遂げるために！**

～小学部自閉症児への取り組み～

# ①児童の実態

- ・ 小学部児童 自閉症
- ・ 4～7月については月7～10日程度の登校日数。
- ・ 好奇心旺盛で、衝動性が強い。「待つ」ことが苦手。4月当初はいろいろな授業場面で離席し、教員が制止すると、寝転び、噛みつき、奇声等が頻繁にあった。
- ・ 余暇の種類が少なく、一人で過ごすことが苦手。絵本やパズル等に取り組める時間は短時間(20秒程度)。

## ②指導場面の詳細

- ・指導場面：課題学習
- ・課題学習終了後、一人で過ごすことができる時間が短い。他のクラスメイトや教員に近寄り、思い通りにならないと、寝転がったり、奇声を上げて泣いたりする。
- ・その都度、教員が対応することで他児の学習時間に影響を与えるため、指導場面として優先的に改善する必要性が高いと判断した。

### ③教員の願い

一人で過ごす時間を増やす。

### ④コンサルを受ける前の指導支援の方向性

4～5月：余暇の種類を増やす！



6～10月：自立課題の種類と量を増やす！

学習量を増やすことで、一人で過ごす時間を増やす。

10月中旬時点で約30課題を実施。

# 10月24日(木)中間報告会 アドバイザーより助言

- ・児童にとって、「**尊い**」目標を設定する。

例：仕事に「2日来ます」と言って、2日来るのと「4日来ます」と言って、3日来るのではどちらが尊いか？

- ・現状、自立課題に取り組んではいるが、本人の自由度が高く、課題遂行度合いにムラがある。**確実に課題を遂行することが重要。**
- ・課題量を減らしてでも**指示を守り**、自立課題に取り組むことが大切である。
- ・環境設定→**「動き」**をつける。課題机と課題の指示書、課題棚の位置を工夫する。課題机と課題棚を3m程度離す。

## ⑤指導の工夫と改善

### (1)ワークシステムの使い方を学ぶ

- ・指示を守って、自立課題に取り組むことができることをめざした。
- ・壁に貼られた一番上の**数字カード**を取り、マッチングさせて課題が入ったかごを取ってくることを教えた。
- ・1つの課題を終えたら自立課題のかごを**終了箱**に置き、指示書の前に移動し、次の自立課題を準備することを教えた。
- ・すべての課題を終えると、「できました」カードを教員に手渡し、報告することを教えた。
- ・対面課題で実施し、身体的ガイダンス等の手助けを徐々に減らしていき、一人で取り組めるように促した。

# 学習活動の流れ

①数字カードをとり、課題棚の対応する課題かごのポケットに入れる。



②課題かごを持ち、自立課題用の机に移動する。



③課題に取り組む。



④課題を終えると終了箱に課題かごを入れる。



⑤課題棚横まで移動し、次の数字カードをとる。



⑥①～⑤を繰り返す。



⑦すべての課題を終えると、教員に報告する。(「できました」カードを教員に手渡す)



⑧休憩(5分程度:タブレットで好きな動画鑑賞)

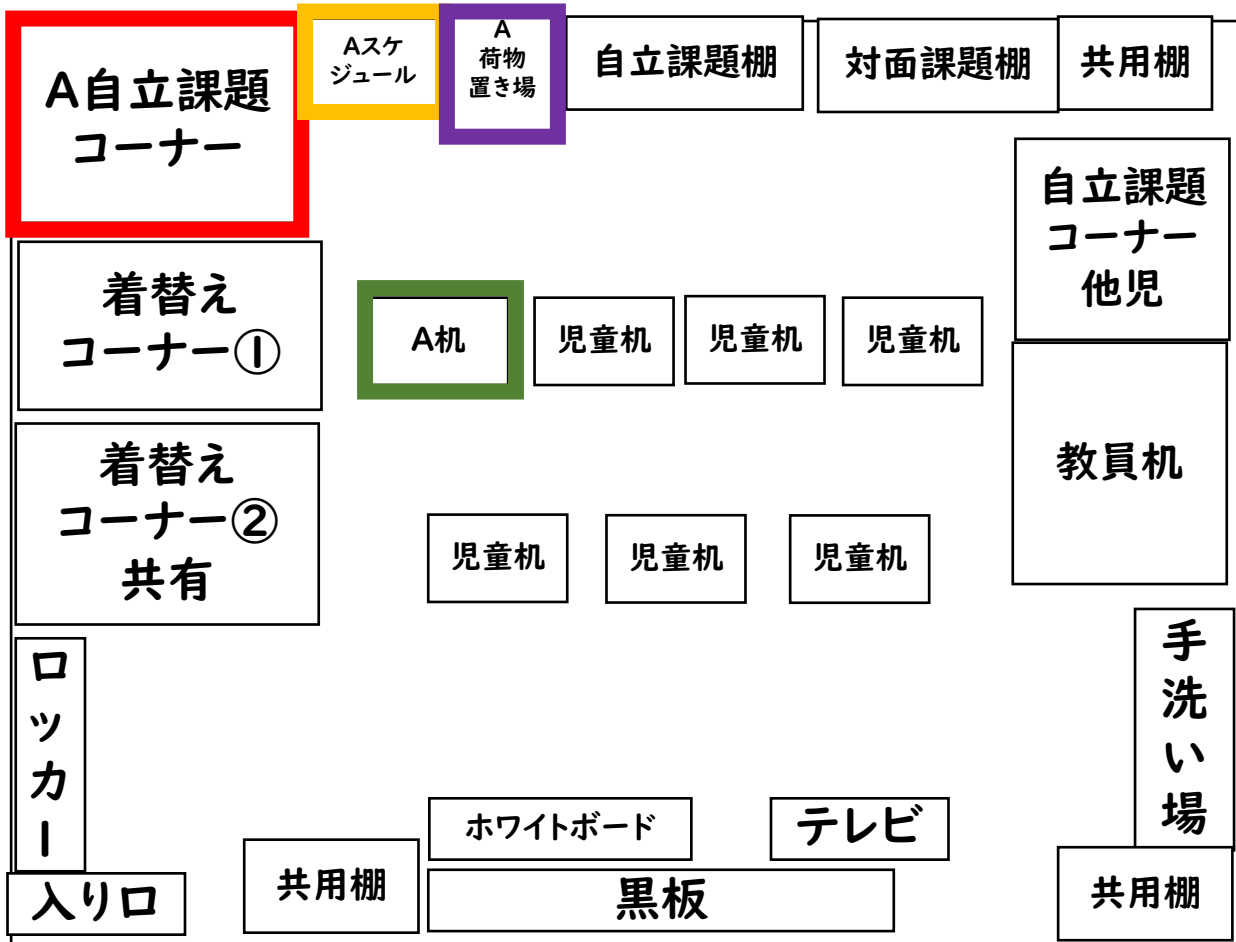
→タイマーを操作し、自ら休憩を終えると2回目の自立課題に取り組む

→教員は児童が休憩している間に記録と次の課題の準備を行う(30秒程度)

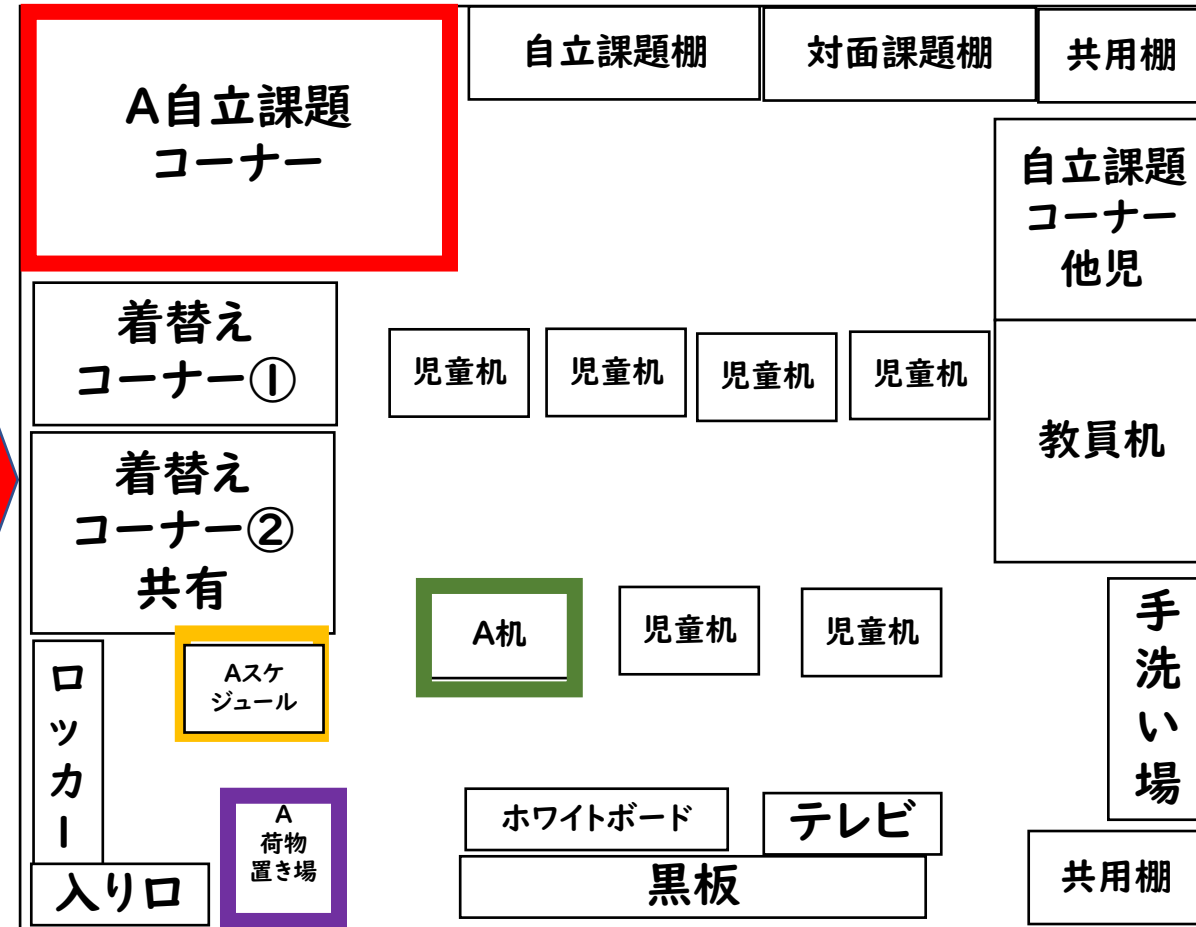


# 教室環境の改善

## 改善前



## 改善後

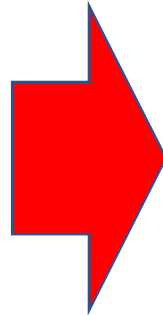




# ⑤指導の工夫と改善

## (2) 自立課題コーナー環境の改善

R6.10月下旬



R6.11月下旬



## ⑥記録方法とグラフ

### 課題の遂行度合い

- ・ 課題を確実に遂行しているか、1 課題毎に確認する。  
課題を確実に遂行していた場合は記録表の課題番号に○を記入する。
- ・ 課題遂行率算出方法  $\frac{\text{遂行できた課題数}}{\text{課題数}} \times 100 \%$

### 指示を守る(スケジュール)

- ・ 指示通りの順番に課題を遂行できた場合は記録表に○をつける。  
例：1 → 2 → 3 …
- ・ 指示遵守率の算出方法  $\frac{\text{指示通りに取り組めた課題数}}{\text{指示した課題数}} \times 100 \%$



## ⑥記録方法と記録

- 右図のような記録表を作成し、**課題の遂行度合いと指示(スケジュール)通り**に課題に取り組んでいるのかを記録した。
- 3日又は6回連続で遂行率と指示を守ることが100%達成できれば、課題を1課題ずつ増やしていく。

[illegible]

# ⑦指導の結果

課題の遂行度合い

指示を守る

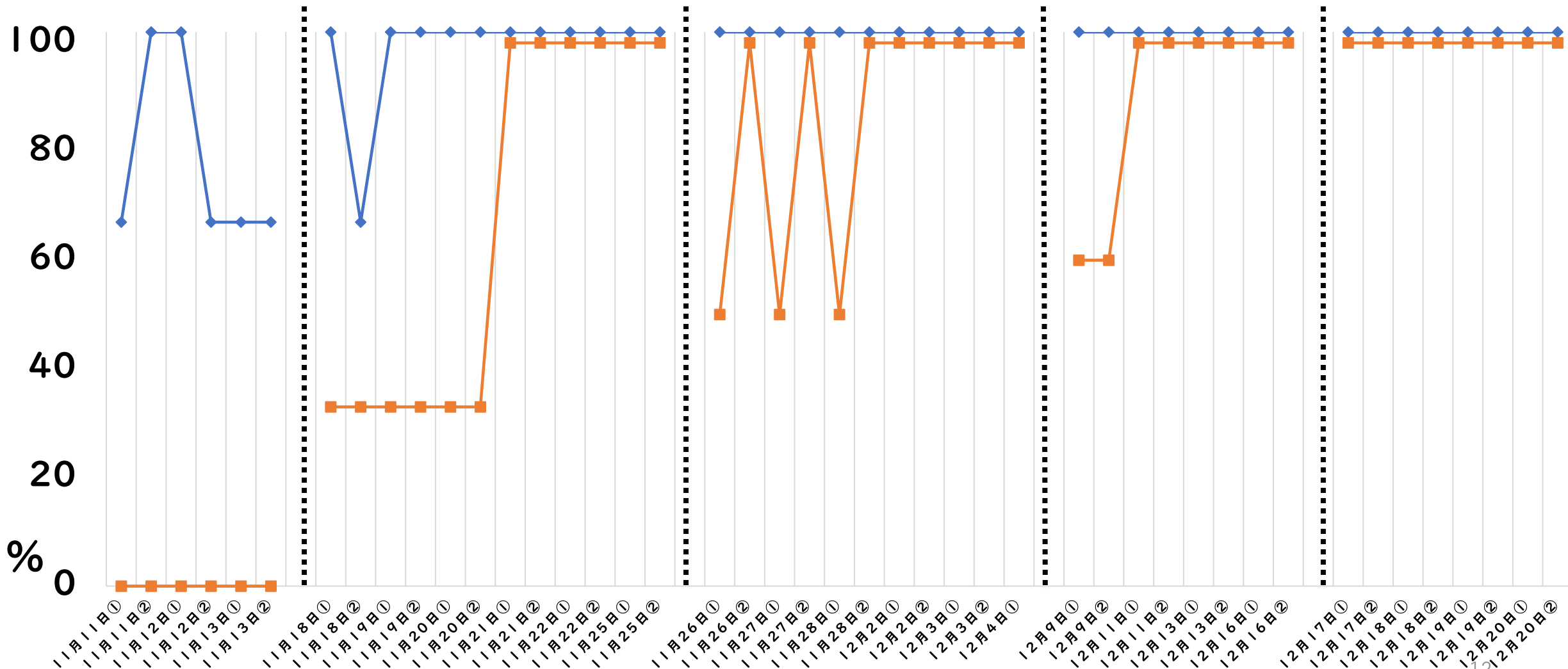
ベースライン

ステップ1 (3 課題)

ステップ2 (4 課題)

ステップ3 (5 課題)

ステップ4 (6 課題)



## ⑧今後の展開について

- 自立課題のレパートリーを増やし、確実にやり遂げることができるようにする。
- 自立課題以外の場面においても、指示を守って、確実に取り組むことができる場面を増やしていく。(手伝いや係活動等)

## ⑨ここが成功のポイント

- 児童の「できること」に着目し、指導・支援方法を改善したこと。
- 学習環境(課題机と課題の指示書、課題棚の位置)を改善し、児童が安心して学習に取り組めるように配慮したこと。
- 児童の目標を再考し、将来的にどのような力が必要か考え、実践に取り組んだこと。